

新しい時代を創る 気概を持って！



平成30年度 学位記授与式 学長式辞

学長 松田 文子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。図らずも皆さんは、平成最後の年の卒業生・修了生として、また、まだ名称はわかりませんが、新たな元号の年の初の社会人として巣立つことになりました。

在学中にはたくさんのことを学び、経験し、多くの人間関係を築かれたことと思います。それらを糧として、社会に出た皆さんが大きく花開かれることをここから期待しています。そして、ご臨席いただいておりますご家族の皆様、本日は誠にありがとうございます。ご家族の皆様のご長きにわたる物心両面でのご支援に、教職員一同、ここから感謝申し上げるとともに、こうして若さと知力にあふれる若者約700人を新たに世に送り出すことができることをここから喜び、誇りに思います。

卒業生・修了生の皆さんは、在学中には勉学を続け、本日卒業式を迎えることができたわけですが、それを誇りに思うと同時に、今日までの皆さんの勉学や生活を支えてくださった家族や仲間、そして社会の人々に感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。昨年の夏には西日本豪雨により多くの方が亡くなられ、家屋や道路・鉄道などの被害も甚大でしたが、そうした中でも皆さんは勉学を続け、こうして無事卒業を迎えることができたのです。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りと共に、これからは皆さんが社会に出て、社会を支える側になることをしっかり自覚しましょう。1975年に開学した福山大学は、皆さんを含めてこれまでに約36,000人の卒業生を送り出してきました。卒業生は、備後地域を中心に全国の様々な地域でリーダーや中核となって社会を担っており、そこに皆さんも仲間入りするのです。卒業生は本学の宝であると同時に、社会は皆さんに大きな大きな期待を寄せています。

さて、その社会は現在、なかなか難しい問題をたくさん抱えています。国際的に見れば、民主主義の根底にあるべき寛容の精神が失われつつあるのではないかと危惧され、あちこちで

国と国、地域と地域の欲望がぶつかり合い、人々の分断が起こっています。また、幾何級数的に進歩するコンピュータ技術も人々に多様で多大な恩恵をもたらす一方で、将来の人間の仕事のありようへの不安も生み出し、さらにコンピュータウイルスやサイバーテロといった、新たなそして強大な脅威を人工的にもたらしてもいます。このグローバル社会においては、これらと無関係に日本の国が成り立つことも、私たち一人ひとりが社会人として生活することも不可能です。

そして、さらに我が国は、少子超高齢化、人口減少の下でどのような持続可能な社会をどのように作っていくのかという、これまで経験したことのない、外国にも解決のモデルのない、新しいタイプの難問を突きつけられています。これから10年の間にも、生産年齢人口の減少と人工知能AIの発達により、働く環境や働き方、そしてそれらにまつわる解決すべき諸問題は増大かつ激変することが予想されます。

皆さんがこれから支え作っていく社会は、このようになかなか先の見通しのつきにくいものであり、また困難の予想されるものではありませんが、それだけに皆さんが大学時代に学んで身につけた知識、技能、態度、それらを総合して発揮する人間力への期待も大きいのです。時代に流されるのではなく、是非時代を創っていただきたいと思います。

広く大学教育の成果として、今皆さんが手にしている様々な能力と態度に支えられた自信と希望を心の糧として、社会に出てもそれぞれの場所で核となる人材となり、向かってくる困難に打ち勝って、その地域を支え、そこから世界に発信し、ローカルにもグローバルにも活躍していただければと、心から期待しています。

では、皆さんのこれからのご活躍を願って、もう一度「ご卒業おめでとうございます」と述べ、式辞を終わりとします。

平成31年3月20日

